

ぎふ感染症かわら版



令和3年12月17日 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）

県内にノロウイルス食中毒注意報が発表されました！

冬はノロウイルスによる食中毒が多く発生する季節です。昨シーズンの流行はみられませんでした。今シーズンは11月ごろから感染性胃腸炎（ノロウイルスが原因のものを含む）の患者数が県内で少しずつ増加しています。そのため12月16日に、“ノロウイルス食中毒注意報”が発表されました。



どんな病気？

潜伏期間は1～2日で、吐き気、おう吐、下痢、腹痛などの症状があらわれます。通常は1～2日で症状は治まりますが、小さいお子さんや高齢の方は、おう吐・下痢による脱水や、おう吐物による窒息に注意が必要です。



どうやってうつるの？ 予防方法は？

感染した人の便やおう吐物に含まれるウイルスが、次のような経路で他の人に感染します。

- 患者の便などに含まれるウイルスが、人の手などを介して口に入り感染する
- 感染した人が十分な手洗いをせずに調理をして食品を汚染し、その食品を加熱せずに食べて感染する
- 便やおう吐物が適切に処理されず、床などに残ったウイルスが乾燥して空気中に漂い、それを口や鼻から吸い込んで感染する



また、カキなどの二枚貝にはノロウイルスが潜んでいることがあり、十分に加熱しないで食べると感染することがあります。



こまめな手洗い※注

特に、**トイレの後、調理や食事の前**などは石けんと流水で入念に手を洗いましょう。

おう吐物の処理は適切に（次ページを参考にしてください）



※注：新型コロナウイルスと異なり、ノロウイルスは消毒用エタノールによる消毒効果は低いとされています。そのため消毒用エタノールは、すぐに石けんによる手洗いが出来ないような場合、あくまで一般的な感染症対策の観点から手洗いの補助として用いてください。



保育所や幼稚園、高齢者施設など、希望される施設に対して「ぎふ感染症かわら版」のメール配信もおこなっています。くわしくは岐阜県感染症情報センターホームページをご覧ください。



おう吐物の処理方法

準備するもの

- 0.1%次亜塩素酸ナトリウム液
- 使い捨て手袋（2組）、マスク、エプロン、シューズカバー
- ペーパータオル
- ごみ袋（2枚）とバケツ
- 水ぶき用のバケツ、ぞうきん

すぐに使えるように
そろえておきましょう

ごみ袋は、バケツに2枚重ねて
用意しておくといやすいです



おう吐物の処理手順

- ① 使い捨て手袋（二重）、マスク、エプロン、シューズカバーを着け、部屋の換気をする
- ② おう吐物をペーパータオルで広めに覆い、外側から内側へと静かにふき取る
- ③ ペーパータオルと外側の手袋をごみ袋（重ねた内側の袋）へ入れ、0.1%次亜塩素酸ナトリウム液を入れて浸し、袋の口を閉める
- ④ ふき取った場所に、新たにペーパータオルをかぶせ0.1%次亜塩素酸ナトリウム液を浸し、10分以上そのままにして消毒する
- ⑤ ペーパータオルを回収し、ごみ袋（重ねた外側の袋）に入れる
- ⑥ エプロン、内側の手袋、マスク、シューズカバーをごみ袋（外側の袋）に入れ、袋の口を閉めてそのまま捨てる
- ⑦ しっかり手洗いをする



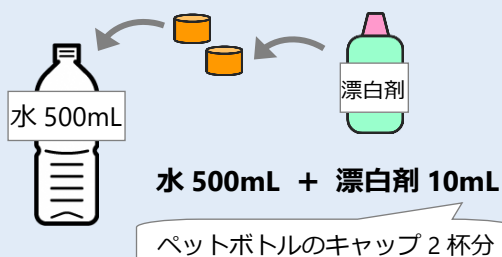
※ 次亜塩素酸ナトリウムは金属を腐食させたりプラスチックを劣化させたりするので、ふいた場所は後から水ぶきしましょう

次亜塩素酸ナトリウム液の作り方

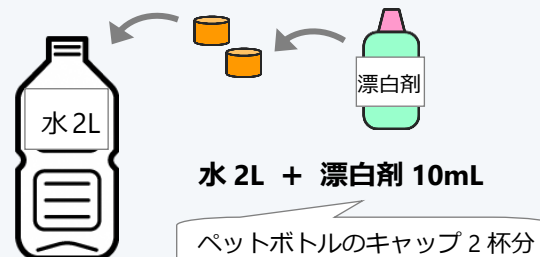
家庭用の塩素系漂白剤（次亜塩素酸ナトリウム濃度 5~6%）を水で薄めて作ります。



0.1%液：おう吐物や便で汚れた場所に



0.02%液：床やドアノブなどの日常清掃に



※ 薄めた漂白剤は、時間とともに効果がなくなりますので、作り置きせずその都度作りましょう。